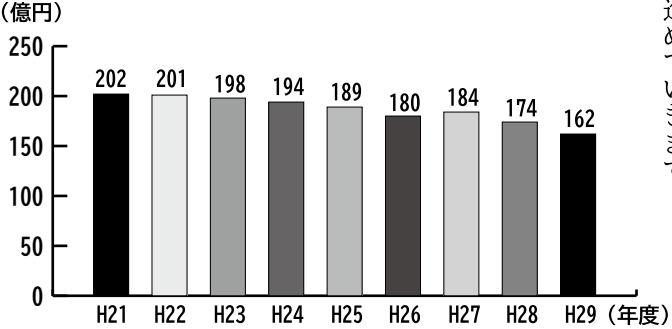


平成29年度の主な事業（目的別）

- 総務費
集会施設整備事業…2,010万円
- 民生費
保育料助成事業（市単独軽減分）…1億62万円
福祉医療助成事業（市単独分）…2,685万円
- 衛生費
金浦保健センター改修事業…3,082万円
熱回収施設等整備事業…2億9,797万円
- 農林水産業費
園芸メガ団地整備事業…5,007万円
農地集積加速化基盤整備事業…3,680万円
中山間地域等直接支払交付金事業…1億4,453万円
漁港施設等整備事業…2,635万円
- 商工費
工業振興条例助成事業…5,164万円
中小企業振興資金融資あっせん事業…4,727万円
移住・Ｕターン・定住促進事業…1,073万円

- 土木費
平沢小出2号線道路改良事業…1億9,082万円
木の根橋架替事業…1億237万円
市道舗装補修事業…4,185万円
市営住宅改修事業…1億1,302万円
住宅リフォーム支援事業…1,234万円
- 消防費
災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車整備事業…5,908万円
消防団施設等整備事業…1,807万円
集会施設耐震化促進事業…1,356万円
- 教育費
象潟小学校大規模改修事業…4億1,717万円
スクールバス整備事業…3,594万円
学校生活サポート事業…4,855万円
象潟郷土資料館改修事業…2,766万円
象潟公会堂駐車場等整備事業…5,159万円

一般会計・地方債（借金）残高の推移

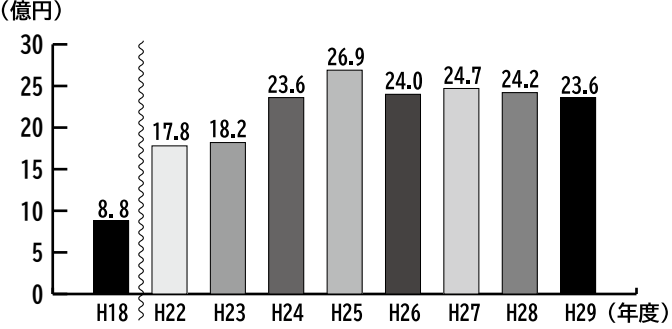


「市債」の残高は、合併後の象潟・仁賀保中学校改築事業などの実施により、21年度末に約202億円まで増加しました。その後も観光拠点センター整備事業、熱回収施設等整備事業などの大型公共事業を実施しながらも、繰上償還の実施などにより、29年度末には約162億円まで減少しました。

今後も、高利な市債の繰上償還を実施するなど市債残高の抑制に努め、将来世代に過度な負担を残さない財政運営を進めていきます。

市債の状況

財政調整基金（貯金）残高の推移



「財政調整基金」は、突発的な災害により生じた減収の補てんや緊急を要する経費に備えるため、また、年間の財源の不均衡を調整するために設置している積立金です。合併直後の18年度末の残高は約8億8千万円でしたが、行政コスト削減や国県補助金等の財源確保の徹底などにより、29年度末には約23億6千万円まで増加しました。

社会経済情勢の変化に伴う財政需要にも対応できるよう、残高の確保に努めてまいります。

財政調整基金の状況

にかほ市の財政状況

財政状況が良好かどうかを示す指標に、健全化判断比率（4指標）と資金不足比率があります。

国が示す判断基準により、市の財政が「健全団体」、「早期健全化団体（要注意）」、「財政再生団体（破たん）」のいずれの状態にあるか、また各会計の経営状態はどうかを判断することができます。この指標のうち一つでも基準値以上となった場合、法で定められた計画の策定を行い、財政の健全化を図ることになります。

にかほ市では、一般会計、特別会計のいずれも実質赤字は生じておらず、繰上償還の継続実施などにより財政規模に対する借金返済の割合を示す「実質公債費比率」、将来負担の割合を示す「将来負担比率」のいずれも「健全団体」とされる数値内を改善傾向で推移しています。また、公営企業でも「資金不足」は生じておらず、財政状況は健全であると言えますが、今後も行財政改革を推進し、さらなる財政の健全化に努めてまいります。

	H27	H28	H29	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	—	—	13.46	20.0
連結実質赤字比率	—	—	—	18.46	30.0
実質公債費比率	9.4	9.0	9.6	25.0	35.0
将来負担比率	100.9	88.8	77.3	350.0	—

※赤字比率は赤字ではないため「—」表記。
※公営企業の「資金不足」もありません。

↑要注意 ↑破たん

平成29年度 決算報告

問 総合政策課 財政班 43・7509

一般会計決算

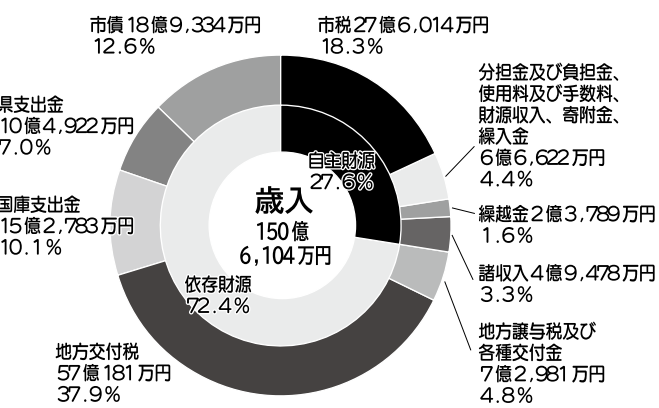
歳入 150億6、104万4千円
歳出 148億7、321万6千円

平成29年度の決算額は、前年度と比べて歳入が約8、600万円（0・6％）、歳出が約3、600万円（0・2％）それぞれ減少しました。これは、歳入の市税が約6、200万円増加した一方で、地方交付税が約4、700万円減少し、また、熱回収施設本体建設工事の完了に伴う事業費の減少により国庫支出金（歳入）および衛生費（歳出）が減少したことなどによるものです。

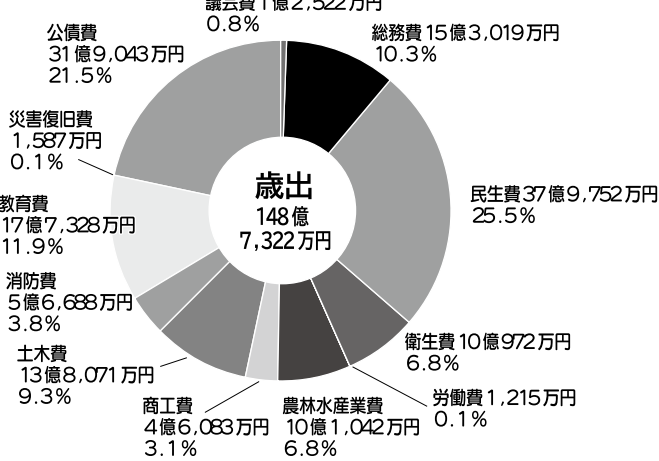
決算収支については、一般会計の実質収支が1億7、854万9千円の黒字で、財政調整基金への積み立てや取り崩しなどを考慮した実質単年度収支は7億5、273万8千円の黒字となりました。この決算に基づく財政健全化判断比率は、財政健全化の取り組みなどから、将来負担比率は前年度と比べて11・5ポイント改善しました。実質公債費比率は熱回収施設の市債の償還開始などにより0・6ポイント悪化したものの、市債残高は着実に減少しているため、改善傾向にあると言えます。

しかし、今後の見通しは歳入の約4割を占める地方交付税が合併特例加算の段階的縮減などにより、今後、更に減少することから、財政規模は縮小化する見通しです。そのような状況下でも、さまざまな行政ニーズや行政課題に対応できるよう経費節減を図りながら健全な財政運営に努めてまいります。

一般会計・歳入決算



一般会計・歳出決算（目的別）



特別会計の決算状況

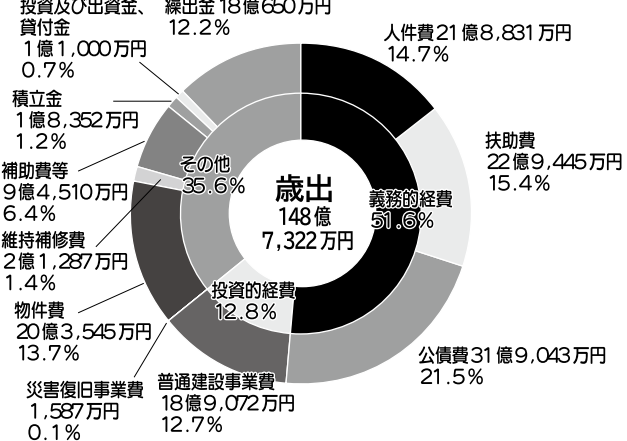
会計名	歳入総額	歳出総額	実質収支
国民健康保険（事業勘定）	33億2,431万円	33億84万円	2,347万円
国民健康保険（施設勘定）	8,334万円	7,236万円	1,098万円
後期高齢者医療	2億9,797万円	2億9,710万円	87万円
公共下水道事業	11億6,018万円	11億3,905万円	2,113万円
農業集落排水事業	4億3,050万円	4億2,318万円	732万円

一般会計・歳入歳出決算の状況

歳入総額	150億6,104万4千円…①
歳出総額	148億7,321万6千円…②
差引（①－②）	1億8,782万8千円…③
翌年度へ繰り越すべき財源	927万9千円…④
実質収支（③－④）	1億7,854万9千円…⑤
前年度実質収支	2億2,772万6千円…⑥
単年度収支（⑤－⑥）	△4,917万7千円…⑦
財政調整基金積立金	3,801万1千円…⑧
繰上償還額	8億6,738万6千円…⑨
財政調整基金取崩額	1億348万2千円…⑩
実質単年度収支（⑦＋⑧＋⑨－⑩）	7億5,273万8千円

※9月議会承認された平成29年度の決算状況をお知らせします。
（金額・数値は表示単位で調整しています）

一般会計・歳出決算（性質別）



企業会計の決算状況

会計名	収入額	支出額
ガス事業	収益的	5億3,459万円
	資本的	5,686万円
水道事業	収益的	6億4,533万円
	資本的	2億3,746万円

※資本的支出に不足する額は、過年度分損益勘定留保資金などで補てん